

ランの花は優雅な女性

早いもので結婚して40年になる。結婚のお祝いにシンガポールに住む先輩からプレゼントが届いた。開けてみるとランの花にゴールドをコーティングした素敵なブローチであった。その時初めてシンガポールを代表する花であることを知った。その6年後の1981年にシンガポール初の交配種が発見され国花としてランが制定されたそうだ。

国花とはその国の象徴とされる花のことで、国民から親しまれ愛されている花を言う。ちなみに日本の国花は桜と菊の2つ。韓国はムクゲ。中国は牡丹。台湾は梅。インドは蓮。オランダはチューリップ。スペインはカーネーション。フランスはアイリスとユリ。アメリカはバラ。各国にはそれぞれ国を象徴する花があるようだ。

ランの種類には世界中で2万5千種以上ある。全ての植物の約1割の種類が南極をのぞいて地球上のあらゆる場所で生息している。特にアジア、アフリカ、中南米の熱帯地域に多く自生している。なかんずくシンガポールはランのメッカだ。

私は贈物にアレンジメントにした花を贈ることが多い。友人に花屋さんがあるから手軽に注文できることがその理由。送り先は殆どが女性。花の美しさを感じてくれるからだ。特に美しい花の代表ともいえるランは誰もが愛する共通の花である。私もそのランの美しさに魅了されている一人である。ランには様々な種類がある。この胡蝶蘭はマリリン・モンローのイメージかな。

これはリズ・テラー、ソフィア・ローレン、山本富士子、美空ひばり…。そしてこちらは結婚する前の妻。ランの優雅な花を見ていると素敵な女性が浮かんでくる。このランは誰かな？ 思い出さる限りの女性が浮かんでくる。ランを見るのは楽しいね！



撮影 2014 年秋

